

平成31年度 学校経営計画・学校評価

全日制

高知東工業 高等学校

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働
目指すべき姿	学校像 「就職して、しっかり働ける人づくり」、「進学して、しっかり学べる人づくり」 ～ 自立 (independence) と自律 (autonomy) を体現できる成長への導き ～ 生徒像 「夢」や「志」をもって主体的に希望進路を実現していく生徒を育てる	目指すべき姿を実現するための取組等	・各部署との連携を図る。 ・「よりよい授業づくり」の研究。 ・特別支援教育のスキルを身に付ける。 ・生徒が活躍できる場の提供。 ・資格取得への対応。 ・ものづくり教育の充実。 ・部活動の活性化。

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 C 】
個別対応が必要な生徒への手立てや意欲付け、生徒自ら学習を進めている点は評価できる。凡事徹底ノートなどを用いて継続指導している点も評価できる。しかし、進学してから苦勞の無いよう、基礎学力定着の理解を促して欲しい。成績優秀な生徒が2学期末に減少しているなら、基礎学力定着と同じように指導するべきである。また、点数にこだわること大切であるが、人間的な魅力や心の豊かさについて考えることも大切である。授業改善に具体的にどう臨んだのかわからない。取組が家庭に伝わっていないのが残念である。	
【社会性の育成】	評価 【 B 】
挨拶運動や規範意識の育成に取り組まれていることが分かる。学習以外の教育も多角的な考えを持って取組んでいることが評価できる。遅刻・欠席は、社会への適応として重要視されるので、引き続き取組の強化を期待する。コミュニケーション能力向上とキャリアデザイン能力を身につけるための手立てが明確である。さらに凡事徹底を図り、チームとして取り組むことが必要と感じた。また、一人ひとり家庭と学校とのつながりも大事である。学校評価アンケート結果から、生徒と教員の意識の違いの要因は何だろう。	
【チーム学校】	評価 【 B 】
議題に合った組織対応を今後も継続してほしい。部活動や生徒指導など、多く取組まれている部署があるが、取り組みがバラバラで新しい取組みをスタートさせてほしい。また、若い教員の育成と課題過多は別物、先輩たちこそよく動き、よく学ぶ！それは生徒も見ている。生徒は思う以上に本質を見抜いている。また、いじめが増えている。いじめられた側のフォローは大事だと思うがいじめた側の指導はもっと大事である。教職員が各部で専門的な能力を発揮でき、今後に期待できる。	

《重点項目：生徒に対する取組項目》

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標を概ね達成 C: やや不十分 D: 不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	・D3層の生徒の割合10%以下 ・成績1保有者数10%以下 ・成績優秀者数20%以上 ・進路決定者数100% ・資格・検定試験の受験者数、合格者数の増加 ・授業時数の確保(1単位35時間を目指す)	・朝の小テストの実施・朝の読書活動 ・授業改善 ・ものづくり、研究活動の推進、資格取得の推奨 ・学習支援員による補力補習、外部講師の活用 ・教科書の内容と実際の出来事結びつける ・家庭学習の課題を提示し、習慣づけさせる ・多様な進路に対応した教育課程の編成 ・学校行事のより一層の精選	C	大半の生徒が落ち着いているが、生活が乱れた者も多く、成績面では2極化が見られる。また、過年度の欠点を抱えている生徒も多い。学習支援員による補力補習は、一定の成果が見られる。また、朝の読書は一部できていない生徒がいるが、おおむね定着している。	B	D3層は、1年26.9%、2年10.1%、3年18.3%となり、目標値の達成は出来なかった。評定1保有者は、各学年14.1%、17.6%、5.6%となり、成績優秀者は35.0%、35.3%、34.3%となった。進路決定者は、96.0%。基礎学力不足で授業に支障が出ている生徒がいるが、補力補習や朝の読書、小テストなどで定着を図ることができている。
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	・進路ノート、凡事徹底ノートの活用90%以上 ・皆勤者数の増加、遅刻0日の達成率70%以上 ・校則の遵守 ・交通違反や交通事故ゼロを目指す ・ヘルメット着用の推奨 ・学校生活アンケートの肯定的回答の割合増加 ・きちんと挨拶ができる、正しい言葉遣いができる ・国際交流の推進	・仲間づくり宿舎等の人間関係づくりの機会の確保 ・凡事徹底ノート、進路の手引きノートの意識付けと活用 ・企業見学、SPI講習会、PTA総会講演 ・清掃ボランティアなど、地域の活動にも積極的に参加。 ・体育祭への取り組み ・就職スキルアップ講習会、ビジネスマナー講習会、就職ガイダンス ・インターシップの2年全員実施 ・進路目標の確立 ・授業での規律を大事にする ・ものづくり総合技術展、生徒研究発表会など、対外的に発表する機会を確保する。	B	皆勤者が多くいる一方で、特定の生徒に遅刻・欠席が多くみられる。時数が心配な生徒もおり、今後の生活の改善が必要である。凡事徹底ノート・進路ノートは概ね活用できている。キャリア教育講演会では概ね生徒に伝えたいことが実践できた。4月に新入生集団宿泊研修(仲間づくり宿舎)を各科で実施し、高校生活の大切さや自ら考えて行動する力が必要であることを説いた。生徒会を中心に清掃ボランティア活動を実施し「活気ある東工業」を目標に取り組んだ。	B	1年間の皆勤者は、昨年度27.1%から今年度は28.1%と、微増ではあるが目標を達成した。が、遅刻0日の達成率は69.8%であった。ヘルメット購入の助成費申請者は多かったが、購入者はほとんどいなかった。韓国柳韓工業高校から、今年度も訪問があり、また個別他からも訪問するなど、積極的な国際交流が行われた。

《チーム学校：教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	○基礎学力の定着 ○全教員の公開授業 ○ICT機器の活用	・自習時間10回以内 ・D3層の生徒の割合10%以下 ・「授業内容が分かりやすい」と回答した割合90%以上 ・「学習活動で自ら振り返る場面が設定されている」と回答した割合70%以上 ・家庭学習時間0の生徒30%以下 ・個々の生徒に応じた指導計画を立て、学習指導をする。	・学校支援チームによる支援の校内への展開 ・教員間の相互授業参観の実施 ・研修への積極的な参加 ・ICT機器の活用 ・ペア学習、振り返りの時間設定等、深い学びにつながる授業づくり	B	1日あたりの家庭学習をしない(時間0分)と答えた生徒が1年(2人)、2年(11人)、3年(19人)、全体31%(32人)であった。教科によっては、週1回の科会を行い、各クラスの情報交換を行った。	B	基礎学力が極端に低く、家庭学習の習慣もない生徒に対しては、学び方を教えることから始めた。科目によるが、ICT機器は一定活用ができています。全教員による公開授業も実施した。
生徒理解 生徒支援	○生徒が安心で安全に過ごせる環境の整備	・生徒指導件数現状維持 ・多様な生徒の理解と情報共有 ・新入学生の中学校等への開取りの完全実施 ・不登校生徒への早期対応 ・スクールカウンセラーの相談件数	・SCによる授業参観と面談の実施 ・校内支援会の活用と情報共有 ・全定合同校内研修会 ・外部機関との連携 ・生徒情報集約及び周知 ・Q-Uアンケート	B	1学期は生徒指導件数、深夜徘徊の件数ともに0件であった。支援を要する生徒でトラブルあった。いじめ認知件数は、23件であった。	B	生徒指導件数は、昨年に引き続き0件であったが、器物損壊があり、深夜徘徊も昨年より増加した。いじめの認知件数は、昨年より13件増えて36件であり、人間関係のトラブルが起きている。新入生の出身中学校への聞き取りは100%、SCの相談件数は507件であった。
学校の振興	○ものづくりの取組 ○資格取得への挑戦 ○部活動の活性化 ○国際感覚磨く	・部活動加入率5%増 ・各種検定等の受験奨励と合格率アップ ・国際交流の推進	・部活動紹介の活用 ・中学校との情報交換及び交流 ・資格取得の推奨(取得時の達成感) ・部活動による体力の向上と学校の活性化	B	今年度は部活動加入率が3%減少しているが、中学校での経験者に声掛けをするなど、部員確保に努める。資格取得は積極的に努める事ができている。	B	部活動の加入率は昨年度より2%増の71%であった。国際交流は、柳韓工業高校から2回訪問を受けたほか、初めてこちらからも訪問した。資格取得は、基本的なものは合格率が高いが、上級なものや実用的なものは合格率が低い。
働き方改革	○部活動方針の徹底	・1か月の時間外勤務が45時間未満 ・年間の時間外勤務、360時間未満	・部活動の年間計画の公開と確実な実施 ・2ヶ月に1日の定時退校日の設定	B	定時退校日として、6月6日、7月4日、8月13日の3回設けたが、ほとんどの教職員が1時間以内には退校している。1か月の勤務時間が45時間を超える教職員は、約30%であった。	B	役割分担は出来ているものの、負担の大きい教職員が存在している。部活動は計画通りに行っている。補習や進路指導に割かれる時間が大きく、定時退校は難しい日が多い。一方、ノー残業デーは6回ともにほとんどすべての教職員が1時間以内に退校している。